

会員増へ勉強会充実

関西知的財産協議会



12年度に開いた例会の様子

中堅・若手層を呼び込み

関西知的財産協議会（大阪市中央区、巖櫻邦弘会長）は、隔月開催する勉強会のテーマを充実させるなどして会員増加策を積極化する。中でも中堅・若手層の知財担当者集積を強化し、異業種間の連携に結びつける。2013年度は最先端の複合素材開発や万能細胞（iPS細胞）など、注目テーマを多く盛り込んで刷新した。廉価な年会費も背景に、早期に会員数を50人増の150人を目指す。

関西知的財産協議会は、0に事務局を置く。知的財産に関する知識啓蒙を目的に、13年に設立40周年を迎えるが、会員の平均年齢は40代後半。このため知財士や企業関係者ら100人で構成され、例会が隔月開かれる。特許調査を扱うネットス（大阪市中央区、藤本周一社長、06・6261・299）の炭素繊維強化プラスチック（CFRP）開発や

iPS細胞の特許戦略、デジタル知財など、13年度は例会の内容も単なる知財管理に留めず、テクノロジー管理に留めず、テコ入れした。会場は大阪大学中之島センター（大阪市北区）が中心で、例会後に懇親会も開く。

現在、会員100人のうち、企業関係者が約半数。その70%が大手からの参加という。今後は加盟する大阪府、兵庫県の各発明協会支部と協業しやすい利点なども前面にして、中小の経営者や若手層拡大につなげる。

事務局長を務める藤本社長は「年会費の安さ（2000円）で、まず興味をもってもらいやすいのでは」と期待感を込める。